



キャンパス／大阪府大阪市 学生数／2,215人 設置者／学校法人森ノ宮医療学園 創立／1973年(2007年大学設置)
建学の精神／臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する
学部／看護、総合リハビリテーション、医療技術 専攻科／助産学
大学院／保健医療学

「選ばれ続ける大学」に向けた重点施策

項目	～2021年度(知名度向上)	2022年度～(質向上)
学部学科、専攻科	医療系総合大学をめざして学科を拡充 ▶2011年度:看護学科開設 ▶2016年度:臨床検査学科、作業療法学科、助産学専攻科を開設。従来の鍼灸学科、理学療法学科と合わせ5学科1専攻科となり、医療系の主な分野が整う ▶2018年度:臨床工学科開設 ▶2020年度:診療放射線学科開設	拡充した組織を基盤に質的充実へ ▶2022年度:保健医療学部を看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部の3学部に変更 ▶2024年度:総合リハビリテーション学部言語聴覚学科開設。病院の環境に近い組織の基盤が整い、今後は教育・研究の質的充実を軸として発展させる
教育・研究	チーム医療教育の環境整備 ▶医療に特化したキャリア支援、チーム医療教育カリキュラムなど、医療系総合大学だからこそできる教育づくり ▶学科の募集力を問わず、病院の環境に合わせた主要な医療職分野の学科を設置	ワンランク上の学びをめざす学生向けの価値づくり ▶職種・領域横断型の共同研究を推進* ▶「できない」を支えるだけでなく、「さらに伸ばしたい」を支える学修支援体制へ ▶高い学修意欲に応える高度教育と多職種連携教育の展開 ▶シミュレーションセンター設置
募集広報	医療系大学としての認知拡大 ▶大学の知名度向上とイメージを重視し、マス広告に投資 ▶新設広報は、新設学科単体の魅力発信にとどまらず、既存学科への波及効果をアピールし、大学全体のブランド価値向上につなげる	低学年、西日本への広報強化 ▶大学案内で10ページを割き、ウェブでは特設ページを設けて最大の強みである「チーム医療教育」を紹介 ▶経済的支援の拡充もセットに地方の募集を強化 ▶あらゆる広報機会で、職業理解が深まるようサポートし、ミスマッチを防ぐ ▶大学で学ぶ意義と医療系総合大学ならではの価値(独自性)を訴求する広報

*2020年にインクルーシブ医学研究所設立

注目! 臨床現場を再現したシミュレーションセンターでチーム医療の学びを深める

森ノ宮医療大学は、独自のチーム医療教育とシミュレーション教育が特徴だ。「実際の医療現場に近い環境で実践力を養うこと」と「多職種連携を体験的に学ぶこと」を柱にしたシミュレーション教育実現のため、同大学では、文部科学省の補助事業を活用し、2025年春にシミュレーションセンター「T-MIC」を新設した。

シミュレーションセンターには病室やICUなど、実際の臨床現場に近い環境が整備され、高性能シミュレータや医療機器等も備えられている。多職種連携をリアルに体験できる環境を、学部生を主たる使用者として整備している大学は、全国を見ても稀だ。石塚理事は、「医療系大学が国家試験合格者を重視するのは当然だが、それだけでは他大学や専門学校との差別化にはならない。『資格取得プラスα』を提供する点が本学の価値だ」と強調する。シミュレーションセンターは、学生のうちに「失敗を繰り返す」ことができる環境でもある。この施設を活用し、即戦力級の力を鍛えていく考えだ。



成人患者をリアルに再現した全身シミュレータで、さまざまな体験ができる。

人体模型を用いて「視る・触る・聴く」を安全・確実に行える技術を修得する。



医療系総合大学ならではの チーム医療教育で選ばれる大学へ

森ノ宮医療大学

戦略的な学科新設・学部改組とチーム医療教育により、医療系総合大学としてブランドを確立した森ノ宮医療大学。これまでの取り組みと、今後の募集戦略について聞く。



理事・学長室長・入学広報センター長

石塚 充弘

いしづかみつひろ ●大学卒業後、私立高校の教員、教育業界の広告代理店勤務を経て、2010年森ノ宮医療大学入職。16年にわたり学生募集広報に携わる。2022年入学広報センター長。2023年学長室長(兼任)、同年学園理事。

学科の拡充により チーム医療教育を実現

近年、医療職の人材需要は高まっていますが、医療系大学であれば学生が集まる時代ではありません。今後の競争を見据え、「選ばれる大学」としての地位を確立しなければ、経営の安定も望めません。知名度向上だけでは不十分で、本質的な大学の価値、すなわち教育ブランド力を高め、それを的確に伝えることが重要です。

2007年、鍼灸学科・理学療法学科の2学科で開学した本学は、2011年に看護学科、2016年に作業療法学科・臨床検査学科を新設し、チーム医療を推進する病院に近い環境となりました。これを転機に、めざす大学像を「西日本最大級の医療系総合大学」と定め、現在は3学部8学科体制へと発展しています。教育面

では、医療系総合大学ならではのチーム医療教育を強みとしています。各分野の教員による連携講義やカンファレンスを通じ、多職種連携への理解を深めます。2025年に開設したシミュレーションセンターでは、学科合同授業を展開し、実践力を養います。

医療系志望者の 第一の選択肢をめざして

広報活動でも「医療系総合大学としての価値」に焦点を当てています。国家試験合格率だけでは差別化が難しい中、チーム医療教育やシミュレーション教育など、高度な学びを訴求。特に大学案内では、チーム医療教育に多くのページを割き、その重要性和特色を伝えています。

また、資格取得にとどまらない質の高い学びの実現には、学力上位層からも選ばれることが不可欠です。多くの大学案内が簡潔さを重視する中、本学はあえて豊富な情報を掲載しています。これは、情報量そのものを大学の価値として発信する戦略で、充実した誌面を通じて、他大学との違いを示すとともに、「高いレベルの学びを提供する大学」というブランド形成につなげています。その結果

近年は高学力層の出願者も増加しています。

将来的な医療系志望者の減少に備え、医療分野の魅力発信にも注力しています。その一環として、オウンドメディア「セラピア」では、医療の知見をコラム形式でわかりやすく解説。高校ガイダンスは大学のPRではなく入学前教育として、学校選びの視点や医療職の魅力とともに厳しさも伝え、高校生の理解促進に努めています。

本学の志願者数は堅調に推移していますが、近畿圏外からの学生募集強化が課題です。そこで中国エリアを重点地域とし、高校訪問や進学相談会に加え、地方向けリーフレットやウェブ広告、オンラインキャンパス参加者への交通費補助など、多面的な施策を展開しています。さらに、一人暮らし支援金や奨学金制度も充実させています。

短期間で認知度を高めるには多大な費用を要します。そのため、長期的な視点でのブランド形成を重視しています。今の高校生が親になる20年後、30年後を見越し、高校生に直接届く広報を継続。認知と信頼を積み重ね、医療系の進学先として真っ先に選択肢に挙がる、医療系分野のスタンダードとなる大学をめざします。

取材・文／本間学 撮影／安田新之助